

毎日パソコン 文字入力 全国ランキング

全国ランキング上位 100 位以内に入った人たちです。



文字入力のコンクールです。決められた和文を5分間で入力します。パソコン中級以上の生徒なら誰でも参加できます。(参加費 1,260 円)

中学年 (3~4年生) 585 名 参加

順位	氏名	学校名	学年	得点
29	山本 伊吹	中部小	4年	459=(382-0+77)
34	太田 優音	牛久保小	3年	445=(387-1+59)
54	金子 芽衣	牛久保小	3年	374=(311-0+63)
56	古川 幹大	天王小	4年	370=(355-3+18)

高学年 (5~6年生) 596 名 参加

順位	氏名	学校名	学年	得点
26	竹下 京吾	中部小	5年	670=(583-1+88)
33	鈴木 陽斗	牛久保小	5年	634=(552-1+83)
55	新田みくる	牛久保小	5年	486=(405-0+81)
66	佐野 真	牛久保小	5年	436=(363-0+73)
76	新屋 朝崇	天王小	5年	416=(362-1+55)

~ 課題文サンプル (低中学年用) ~

ちりもつもれば山となる かえるの子はかえる
ぬかにくぎ 親しきなかにもれいぎあり
へそで茶をわかす 立つ鳥あとをにごさず
にがした魚は大きい 頭かくしてしりかくさず
花よりだんご さるも木からおちる おににかな
ぼう 馬の耳にねんぶつ きつねとたぬき る
いは友をよぶ つるの一声 ふくろのねずみ
まな板のこい てんさいはわすれたところにやっ
てくる 人のふり見てわがふり直せ すずめの
なみだ くさいものにふたをする 来年のことを
言えばおにがわらう

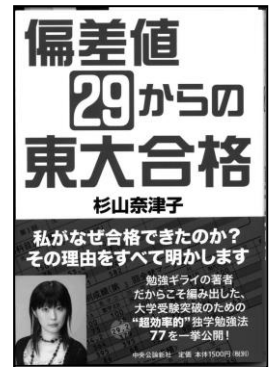
※ 得点 = 正解入力数 - ミスカウント + 特別点

『偏差値 29 から東大に合格した私の超独学勉強法』の著者・杉山奈津子さんがアエラドットの中で興味深いことを話していましたのでその一部をご紹介します

私が、幼少期におススメしたい習い事は、断然「そろばん」です。夫が小さい頃に習っていたのですが、受験のときの有利すぎる話を聞いて「なにそれズルい！」と悔しく思いました。彼は、数学や科学系の教科にある数術の足し算なんかはもちろん、2桁×2桁の掛け算も、紙に書かずに頭の中で計算できました。しかも、とにかく計算スピードが速い。私は非常に計算が苦手で、遅いうえにミスも多くて、問題集を早く進めるために計算機を使って解いていたほどだったので、「私もそろばんを習っておけばよかった！」と後悔しています。彼曰く「そろばんを習っている人は頭の中でそろばんが浮かんでくるようになる」とのこと。それに、受験や勉強だけではなく、日常生活の計算にも一生役立つわけですから、非常にお得な習い事だと言えます。

そろばんをはじくように、指を器用に動かす能力を「巧緻性」と呼びます。指を上手に動かすことは、脳を発達させると言われています。そして、神経系は、3歳から4歳あたりが最も発達しやすい時期だと言われています。有名小学校のお受験の世界では、線を書いたり、紙をちぎったりするのを見て、手先の器用さから将来性を判断するそうです。認知症だった祖母も、指を動かすためによく施設で折り紙をやっていました。指を使って玉をパチパチと動かしながら頭も使うそろばんは、脳神経を刺激するのにピッタリです。

幼少期は塾のように「知識を先取りする」という、後から取り返せるようなものよりも、「積極的に手や指を動かすこと」「集中する習慣をつくれること」「日常でつかえること」がそろっている習い事をするのが、子どもの将来のためになるのではないのでしょうか。



*** 便利なIT全盛の時代だからこそ、「読み書きそろばん」で培う基本的なことは、時代を飛び越えて普遍的なことなんだなあ~と感じます。